



平成 28 年 2 月 9 日

各 位

会 社 名 株式会社タカラトミー
代 表 者 名 代表取締役社長 ハロルド・ジヨージ・メイ
(コード番号 7867 東証第 1 部)
問 合 せ 先 取締役常務執行役員連結管理本部長
小島 一洋
(電話番号 03-5654-1548)

特別損失の計上、通期業績予想の修正及び 個別業績予想と前期実績との差異に関するお知らせ

当社は、下記のとおり平成28年3月期第3四半期において特別損失を計上するとともに、平成27年5月12日に公表した連結業績予想を修正いたしましたのでお知らせします。

また、個別業績予想につきまして、下記のとおり前事業年度の実績値と比較して差異が生じることから、併せて下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 特別損失の発生及びその内容（平成27年10月1日～平成27年12月31日）

当社は、平成28年3月期第3四半期会計期間（第2四半期累計期間計上分は除く）において次の特別損失を計上いたしましたのでお知らせいたします。

(1) 連結 計8,058百万円

① のれんの減損損失 3,023百万円

TOMY Internationalグループの厳しい経営環境をふまえ、経営管理体制をアメリカズ（北米・中南米）、欧州、オセアニアのセグメントごとに分けるとともに、事業計画を見直した結果、欧州子会社でののれんの全額について減損損失を計上するものであります。

② 無形固定資産の減損損失 3,657百万円

業績動向をふまえ、TOMY Internationalグループにおけるアメリカズ（北米・中南米）、欧州、オセアニアのセグメントごとの事業計画を見直した結果、欧州子会社の保有する無形固定資産の全額及びアメリカズ（北米・中南米）、オセアニアの子会社が保有する無形固定資産の一部について減損損失を計上するものであります。

③ その他 1,377百万円

TOMY Internationalグループにおける金型など有形固定資産の減損損失（810百万円）及び事業構造改善費用（239百万円）、ならびに、グループ再編の一環として、子供服及び関連雑貨の企画・製造卸・販売を手掛ける(株)ティンカーベルの株式の売却に伴う関係会社株式売却損（323百万円）に加え、その他であります。

(2) 個別 計5,661百万円

① 債務保証損失引当金繰入額及び

投資有価証券評価損ならびに貸倒引当金繰入額 5,209百万円

TOMY International グループにおける欧州子会社の財政状態を踏まえて、債務保証損失引当金繰入額 (3,667百万円) 及び投資有価証券評価損 (1,020百万円) ならびに貸倒引当金繰入額 (521百万円) を計上するものであります。なお、当該損失は連結子会社を対象としているため、連結での特別損失は発生しません。

② その他 452百万円

グループ再編の一環として昨年12月に実施した、子供服及び関連雑貨の企画・製造卸・販売を手掛ける㈱ティンカーベルへの株式売却に伴う貸倒損失 (365百万円) 等であります。

2. 平成28年3月期連結業績予想数値の修正 (平成27年4月1日～平成28年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益又は 当期純損失(△)	1株あたり 当期純利益又は 当期純損失(△)
前回発表予想 (A)	百万円 170,000	百万円 4,000	百万円 3,300	百万円 1,300	円 銭 14.24
今回修正予想 (B)	160,000	2,600	1,600	△7,500	△88.22
増減額 (B-A)	△10,000	△1,400	△1,700	△8,800	—
増減率 (%)	△5.9	△35.0	△51.5	—	—
(ご参考) 前期実績 (平成27年3月期)	149,938	2,466	2,014	△1,817	△19.91

3. 平成28年3月期個別業績予想数値及び前期実績との差異 (平成27年4月1日～平成28年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益又は当 期純損失(△)	1株あたり 当期純利益又は 当期純損失(△)
前期実績 (A)	百万円 57,530	百万円 2,653	百万円 3,285	百万円 1,749	円 銭 19.17
今回修正予想 (B)	61,000	3,500	3,600	△2,800	△32.94
増減額 (B-A)	3,470	847	315	△4,549	—
増減率 (%)	6.0	31.9	9.6	—	—

4. 修正の理由

(1) 連結業績予想

国内市場においては「トミカ」「プラレール」「リカちゃん」に代表される定番商品全般が好調に推移するとともに、男児向け対戦玩具「バイブレードバースト」や女児向けクラフト玩具「モコモじオリーナ」など新商品が好調な販売となり、当初想定を上回る見込みとなります。さらに、アジア地域においては、安定的に収益を確保できる「トミカ」などの販売に注力するとともに、POA (Point of Availability: 販売箇所) を拡大し、コンビニエンスストアや書店など、新たな販路拡大に向けた取り組みが奏功しております。一方、TOMY Internationalグループを取り巻く経営環境は依然として厳しく、北米地域においては、新たにキャラクター関連商品を投入したものの、穀物相場の大幅な下落の影響を受けた農耕車両玩具や、ベビー商品などの出荷が苦戦しております。また、欧州地域においては、競合他社との価格競争が続いており、バストイなどのベビー商品やお絵かきなどプリスクール玩具の販売不振により、売上高は当初想定を下回る見込みであります。さらに、TOMY Internationalグループにおいて、商品構成の変化や仕入原価の上昇などにより売上原価率が悪化したため、営業利益が悪化する見込みとなります。経常利益につきましては、営業外費用の増加により悪化する見込みとなりました。親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、前述の特別損失の計上により大幅に悪化する見込みとなりました。

(2) 個別業績予想（前期実績値との差異）

個別業績につきましては、2014年の映画公開で人気を博した「トランスフォーマー」の海外輸出反動減の影響があったものの、定番商品に加え、新商品の販売が好調に推移しております。また、アジア地域向けの「トミカ」の販売も伸張しており、売上高においては3,470百万円増加と、前年同期を上回る見込みとなります。さらに、売上拡大戦略の一環としてマーケティング及び新商品開発に注力しており、広告宣伝費、研究開発費を増加させるものの、営業利益は前年同期比で847百万円増加となる見込みです。一方、当期純利益におきましては、TOMY International グループにおける欧州子会社の業績悪化に伴い、債務保証損失引当繰入額や投資有価証券評価損など前述の特別損失を計上することなどから、前年同期を下回る見込みであります。

5. TOMY Internationalグループの再建策について

当社グループでは、海外事業の立て直しを積極的に進めるとともに、タカラトミーグループの一体化経営を加速するために、2015年9月15日よりH.G.メイがTOMY Holdings, Inc.の社長兼最高経営責任者を兼任し、経営指揮を執る体制を明確にいたしました。さらに、TOMY Internationalグループをアメリカズ（北米・中南米）、欧州、オセアニアの3つの地域に区分するとともに、各エリアに当社の担当役員を置くオペレーションに変更し、本社が直接経営管理する新たな体制のもと、以下の再建策を推進いたします。

1. 経営管理体制の刷新

- ・本社主導による商品、マーケティング戦略、生産管理体制の実行
- ・事業マネジメント強化による事業の可視化

2. 収益性改善を目的とした事業の集中と選択

- ・玩具及びベビー商品における不採算事業の撤退を徹底
- ・本社主導によるグローバル商品の投入

3. 欧州における収益率の改善

- ・収益基盤であるベビー事業の再構築
- ・ポーランドやロシアなどにおいて、代理店販売への転換による事業リスクの低減

4. 原価率の改善

- ・中国生産からベトナム生産へ生産体制の移行による原価削減
- ・本社主導による為替ヘッジ管理の徹底

5. 人員の削減

- ・欧州、北米において組織の見直しに伴う人員削減

再建策の詳細につきましては、2016年5月13日予定の「株式会社タカラトミー 平成28年3月期 決算説明会」においてご説明いたします。

6. 配当予想について

配当予想につきましては、今回の業績修正に伴う変更はなく、すでに実施した中間配当（第2四半期末）1株につき5円、期末配当として1株につき5円（年間配当金は1株につき10円）を予定しております。

【業績等の予想に関する注意事項】

この資料に記載されております業績等の予想数値につきましては、現時点で得られた情報に基づいて算定しており、多分に不確実な要素を含んでおります。実際の業績は、今後の様々な要因により予想数値と異なる場合があります。

以 上